

## 第29期東京都立図書館協議会 第1回定例会委員発言要旨

発言者	発言概要
配布資料に基づく説明後、各委員による質疑	
小田議長	主要事業には、提言が反映されていくと考えてよいか。
企画経営課長	28期提言は、この3月にいただいたため全てが盛り込まれていないが、令和元年度都立図書館主要事業の具体的な取組には、27期提言を中心に反映されている。
内田委員	レファレンスサービスには人手が必要であると思う。レファレンスサービスは今期の協議の留意点の一つではあるが、サービスへの要望が増加した場合に、対応できる体制はあるのか。
企画経営課長	レファレンスサービスが一番大事なものと考えている。スクラップ・アンド・ビルドで考えていきたい。
久我委員	今後の議論のため、図書館利用者の現状や利用動向を知る機会があると、今後の協議に役立つ。
小田議長	留意点の若年層とは、どのくらいの年齢層をイメージしているか。
企画経営課長	10代と20代である。
岡田委員	都立図書館所蔵貴重資料のデジタル化とAI、IoT、ICTを活用した都立図書館が保有する情報資源の一層の活用との関連について知りたい。
企画経営課等	既にデジタル化済み資料の提供という視点と、新しい技術を活用して資料を提供するという両方の視点があると考えている。
小田議長	レファレンスサービスとは、質問回答だけでなく、利用者自らが調査できるように手段等を整える、情報提供を行うことも含まれると考えてよいか。
企画経営課長	図書館への質問もあるが、資料や環境の整備により、利用促進や利用者が便利になることがあろうかと考えている。
松本副議長	28期提言にもICTの活用について記述しているが、それを含めての検討でよいか。検討の留意点が多いが、留意点よりも広い議論となってもよいか。
企画経営課長	2-3年で実現できる点は押さえていただき、それ以外は、広いスタンスで考えていただきたい。
小田議長	(松本副議長の御意見を受け)今期は短期的なサービス実現に関する議論のため、議論が散漫にならないよう留意点が設定されていると理解している。
高口委員	提言の実現に対し図書館はどのような手段を講じえるか。実現不可能なものについても議論してもよいか。
中央図書館長	ICTの分野は日進月歩である。幅広、前広にご意見をいただきたい。
小田議長	(高口委員の御意見を受け)質の高いサービスを目指すために、敢えて協議会では実現が困難な夢と思われることについても議論を行うと思っている。

伊藤委員	(高口委員の御意見を受け)提言の方向性は、大まかなくくりでいくのか、具体的なサービスを議論するのか知りたい。
企画経営課長	事業の具体化は図書館の役割であり、事業の詳細よりは方向性をまとめていただくことになると考えている。
結城委員	認知度の向上は重要である。専門図書館にも都立図書館との連携が知られていないと思う。知ってもらうことができる取り組みができればよい。
江草委員	AI、IoT、ICTの活用はあくまで手段であって、目的ではない。都立図書館として取り組みたいサービスにどのようなものがあるのか知りたい。
企画経営課長	AI、IoT、ICTを手段としてどのようなものができるのか御提言いただければと考えている。
松本副議長	(江草委員の御意見を受け)今までと異なる層に訴求するため、都立図書館が現在行っているサービスを新たな手法により提供することを行うと認識していた。 新しい技術を用いることで、今まで提供できなかったサービスを生み出し、新たな層への働きかけもできると思う。
小田議長	(江草委員の御意見を受け)新しい技術は日進月歩だが、その進化に遅れないためにも協議会で議論する必要があると思う。 協議会で新しい技術を用いたサービスを議論することで、新規サービス創出の場、現在のサービスを見直し新しい価値を創出する場にもなりうる。
渡部委員	これまでの提言及び29期提言に対する評価をどのように行うのか知りたい。
企画経営課長	図書館の事業計画において、提言との関連付け及び進捗管理、自己評価を実施している。
小田議長	(渡部委員の御意見を受け)PDCAサイクルが回る前に、新規の協議会がスタートするため、提言の評価に対する疑問が出るのは確かだと思う。
小田議長	2つの部会のうち、新しい技術について先に議論することは、提言時に議論内容が古くなる懸念もある。しかし先延ばしにすると協議テーマ自体を見直さなければならないリスクも生じるため、本スケジュールでよいかと思う。